事例作成日	2016年1月6日	登録日時		更新日時	
質問	1879年8月13日に来熊した、エドモンド・モースの講演の件について詳しい出典を知りたい。				
回答	講演会の発起人の一人である林有章（1859－1945：政治家・俳人）が講演会の時の様子を著している。 六三　熊谷最初の演説会と外人の講演「・・・次いで明治十二年八月十三日、米国人モールス博士を招聘して講演会を開いたのが熊谷における最初の外人講演である。それは博士が吉見の百穴を見に来ると云ふ事を聞き、手蔓を求めて講演を請い快諾を與へられたのであった。・・・会場は石上寺内に在った熊谷乙中教院であったが、外国人の講演が呼物となって傍聴人は相当に詰掛けたものであった、其時モールス博士は二時間に余る熱心なる講演をせられた。・・・博士が講演を終わって旅宿に引き上げると田島玉造氏は大いに立腹し、私に向て云ふには　モールスの話では人間の始めは猿だと云ふが如何にも不都合な人物である、彼等毛唐人の先祖は猿であるかも知れないが我々の祖先は決して猿ではない、あんな事を云ふ奴は日本を追佛つ仕舞ふがいい　と大気炎を吐き、今晩旅宿に行って談判すると云ひ出した　そこで私は　君はさう云ふふうに聞いたか知らないが何も猿だと断定したのではない、又発起人の一人がそんな談判を持込んでは穏やかではないから思い止まる方がいい　と云つて極力之れを慰留したのであった・・・」				
参考資料	『幽嶂閑話』　林有章　1935年　P267～269 『埼玉の明治百年（上）』　毎日新聞社浦和支局　1967年　P92～94				